



# MAFF NAVI | 秋田

東北農政局 秋田県拠点

「MAFF NAVI秋田」では、各種政府統計調査結果や行政データ等を活用して分析した秋田農業の実態に関する分析データをお届けします。

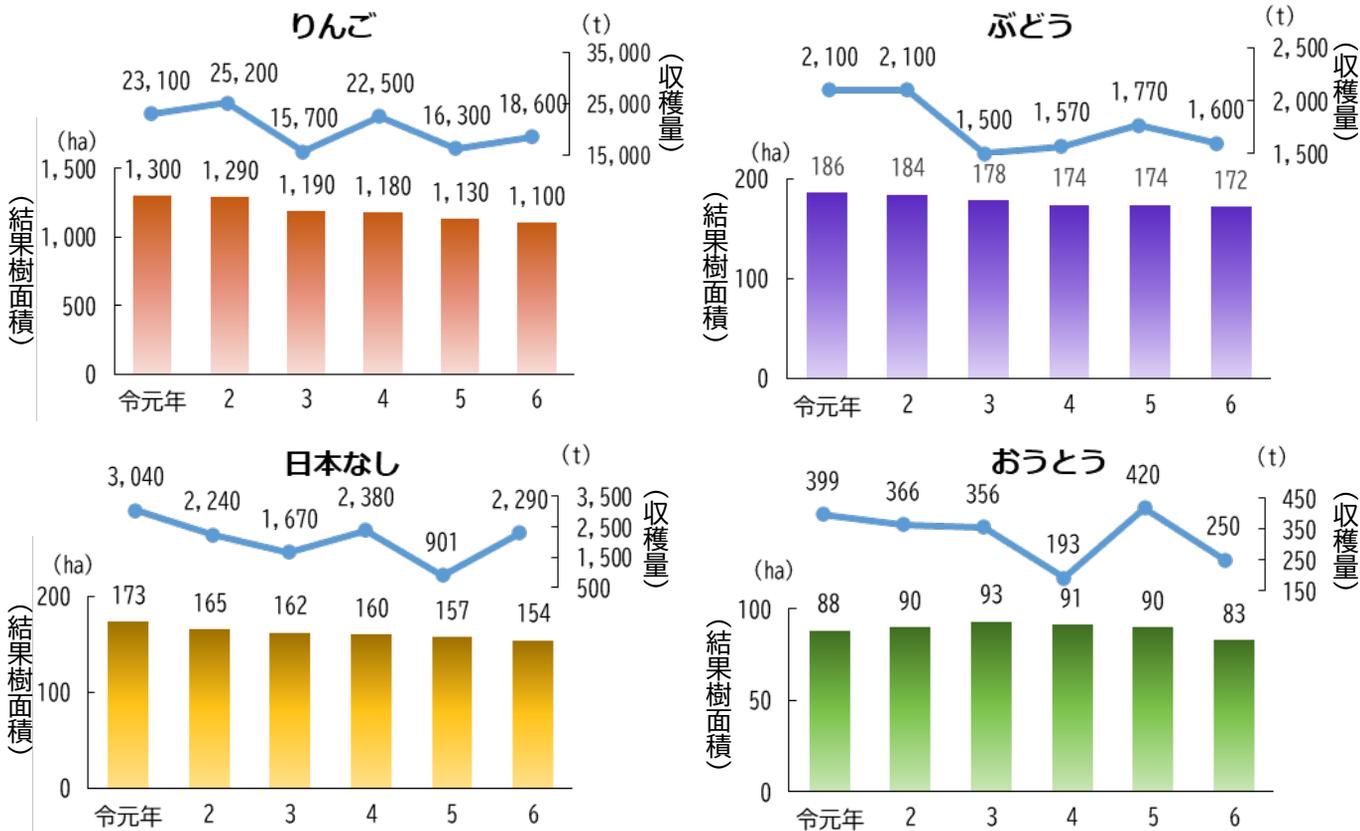
## 今回のテーマ：果樹の結果樹面積と収穫量

令和6年産の果樹調査（農林水産省統計部調べ）で、秋田県において対象となった4品目について公表されました。

品目別の概要をお知らせいたします。

- りんご**：結果樹面積は減少が続き前年産に比べ30ha減少しました。収穫量は、凍霜害や高温等の影響で減少した前年産を上回りました。
- ぶどう**：結果樹面積は令和2年から3年にかけての雪害以降、横ばいで推移しています。収穫量は令和3年以降大きな変動はみられませんでした。
- 日本なし**：結果樹面積は緩やかに減少を続けています。収穫量は凍霜害等で大きく減少した前年産から回復しました。
- おうとう**：結果樹面積はここ数年横ばいで推移しましたが減少に転じました。収穫量は高温による生育障害等の影響から、前年産を大きく下回りました。

図1 果樹の結果樹面積と収穫量の推移（令和6年産、秋田県）



資料：農林水産省統計部「作物統計調査結果」

調査対象は、品目ごとに全国の栽培面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県としています。ただし、令和2年は全国で実施。

# 果樹栽培面積と栽培経営体数の動き（過去のセンサス結果から）

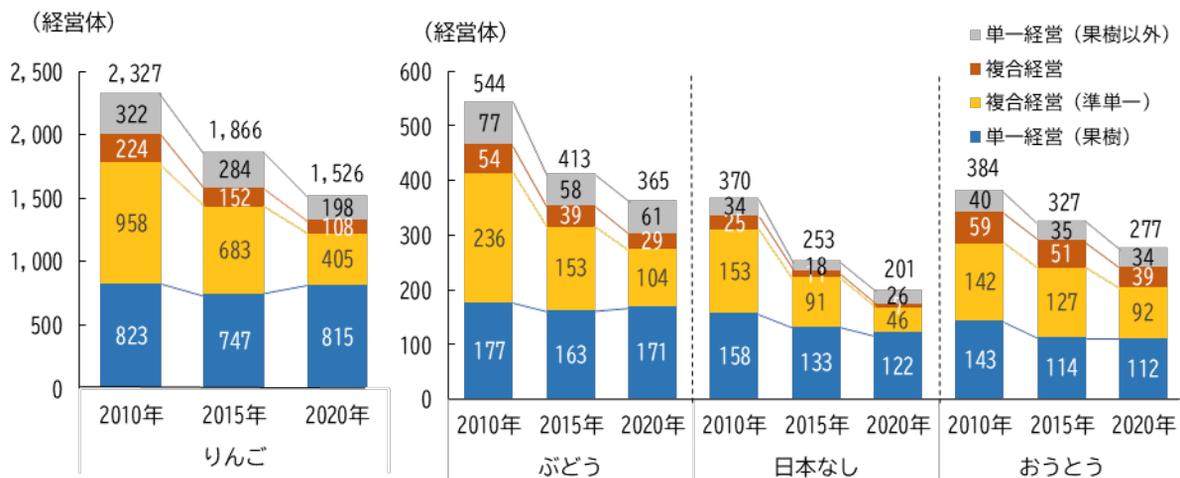
農林業センサス結果から、販売目的で果樹を栽培する経営体（以後、果樹栽培経営体という。）数の動きを、農業経営組織別分類（以後、経営タイプという。）別と、経営耕地規模別に2010年からの動きを見てみます。

経営タイプ別では、果樹栽培経営体を総数として、単一経営（果樹）、複合経営（準単一）、複合経営、単一経営（果樹以外）の4つの経営タイプで分類し、品目別に経営体数の動きを10年前と比べてみます。

果樹栽培経営体総数では、りんご801経営体（34%）、ぶどう179経営体（33%）、日本なし169経営体（46%）、おうとう107経営体（28%）と大きく減少していますが、「単一経営（果樹）」のみでみた場合は、りんご8経営体（1%）、ぶどう6経営体（3%）と減少幅は小さくなっています（日本なし、おうとうは2015年以降、ほぼ横ばい。）。

秋田県内の果樹栽培経営体の総数は大きく減少していますが、果樹栽培を主とする単一経営体が、果樹栽培の中心となっていることがわかります（図2）。

図2 経営タイプから見た果樹栽培経営体数の推移（秋田県）



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」結果（図3も同じ。）

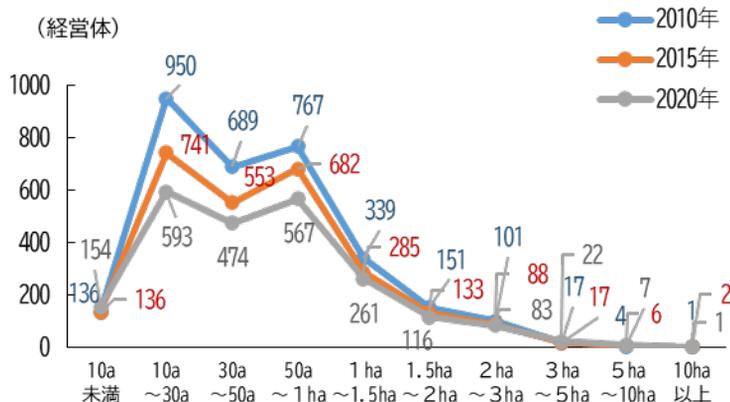
また、経営耕地面積規模別の果樹栽培経営体数をみると、10a未満の階層と2ha以上の各階層での動きは少ないものの、10a以上～2ha未満の中規模階層で減少数が大きくなっています。

大規模階層以外の各階層で、生産者の高齢化等による離農などにより、果樹栽培経営体数が減少したことがわかります（図3）。

2025年センサスの結果が今年11月以降に公表される予定です。

最新の経営体の現状が明らかになります。

図3 栽培規模別に見た経営体数（農林業センサス結果）



単一経営：農産物販売金額のうち、主要部門の販売金額が8割以上の経営体。

複合経営：農産物販売金額のうち、主要部門の販売金額が6割以上8割未満の経営体。

複合経営：農産物販売金額のうち、主要部門の販売金額が6割未満の経営体。

MAFF NAVI秋田では、各種統計データ等を活用し地域の農林水産業の発展を支援するため、見える化した分析データを発信していきます。

農林水産統計データ等活用支援やデータの照会等お気軽にご相談ください。

MAFF

東北農政局秋田県拠点

秋田県秋田市山王7丁目1-5  
018-862-5611

